

学位論文の内容の要旨

専攻	社会環境病態医学	部門	環境医学
学籍番号	06D762	氏名	黒河内 美鈴
論文題目	Correlation between Suicide and Meteorological Parameters		

(論文要旨)

背景

近年、自殺は、日本だけでなく世界における公衆衛生上の深刻な問題である。日本では、過去 15 年間、毎年約 30000 人が自殺している。自殺は、精神的疾患や経済問題などが主な原因として知られているが、自殺予防のために、ハイリスクグループへの対応戦略が求められる。また、近年、温暖化などの気候の変化が世界的な問題となっているが、自殺に対する気候の影響も報告されている。しかし、日本では、自殺と気象データとの関連については詳しく検討されていない状況である。

目的

本研究では、特に自殺の手段に注目し、自殺の手段（縊死、溺死、飛び降り）と気象データとの関係性を東京 23 区において検討した。

方法

2008 年 1 月から 2012 年 12 月までの、東京 23 区における自殺手段別の男女別、月別のデータを東京都監察医務院ホームページから入手した。月別の気象データ（地面気圧、海面気圧、平均気温、最高気温の平均、最低気温の平均、最高気温、最低気温、平均湿度、最低湿度、日照時間）は、気象庁ホームページより入手した。結果は、平均値±標準偏差で表わし、3 群以上の比較は ANOVA（分散分析）と Scheffe's F 検定を用いた。さらに、自殺の手段に与える要因を検討するため重回帰分析を行い、有意水準 5%未満を有意とした。

結果

5 年間における自殺者の月別人数は、男性 110.4 ± 14.7 、女性 55.6 ± 9.1 であった。縊死、溺死、そして飛び降りの自殺者数は、 68.5 ± 11.4 、 3.4 ± 2.2 、そして 18.0 ± 4.7 （男性）、 29.8 ± 9.0 、 2.7 ± 1.7 、そして 12.4 ± 3.9 （女性）であった。自殺の手段別に、月別、性別の自殺者数を比較すると、有意差はなかったが 9 月の男性の溺死(5.2 ± 2.9)が、1 月(2.0 ± 2.3)と 11 月(2.0 ± 0.7)に比較して高値を示した。

自殺と気象データとの関連を検討すると、男性の溺死者数は、平均気温、最高気温の平均、最低気温の平均、最高気温、最低気温との間に有意な正の相関が認められ、地面気圧とも有意な負の相関が認められた。女性の溺死者数も、気温因子と弱い正の相関が認められた。さらに、男性の溺死者数を従属変数として、地面気圧、平均気温、平均湿度、日照時間を独立変数として、重回帰分析を行ったところ、平均気温の影響が大きかった。

考察

東京23区の自殺手段と気象データとの関連を厳密に数値化した。男性の溺死者数が、気温と正の有意な相関関係にあった。これらの知見は、自殺予防についての、効果的な対策や介入の時期について、今後の研究や対策に有用な示唆をもたらすと思われる。

結論

東京23区における自殺手段と気象データとの関連を検討した結果、特に男性の溺死者数では気温との関連が示唆された。

	地面気圧		平均気温		最高気温の平均	
	r	p	r	p	r	p
男性溺死	-0.441	0.0004	0.439	0.0004	0.441	0.0004
女性溺死	-0.250	0.0544	0.312	0.0153	0.315	0.0142
最低気温の平均			最低気温		最低気温	
男性溺死	0.438	0.0005	0.448	0.0003	0.448	0.0003
女性溺死	0.310	0.0160	0.328	0.0104	0.328	0.0104
平均湿度			最低湿度		日照時間	
男性溺死	0.299	0.0205	0.356	0.0053	0.153	0.2440
女性溺死	0.243	0.0619	0.191	0.1428	0.074	0.5748

掲載誌名	MEDICINA			第51巻、第6号
(公表予定) 掲載年月	平成27年 11月	出版社(等)名	Elsevier	
Peer Review	(有)		無	

(備考) 論文要旨は、日本語で1,500字以内にまとめてください。